

# 谷間のゆり

## 「マリア」、「ラボニ(先生)！」

七條基督教会 村上恵子

十字架の足元でわが師のむごい最期を見届けたマグダラのマリアは、痛みと苦しみの涙を流していました。「どうしてこんなことが…。私の中に棲みつく悪霊を追い出して下さった方が…。ラザロをよみがえらせた方が…。」理不尽で矛盾に満ちたこの世への怒りにも似た思いがわき上がってきました。また、慕っていたイエス様への思いが胸を苦しくさせます。「かわいそうなイエス様。こんなひどい仕打ちを受けて、どれほど人々に尽くしてきたことか。」

マリアの涙は3日後の園の墓でも流されました。「愛するイエス様の亡骸がない。せめて香料を塗ってさし上げたいと思っていたのに。」痛み悲しむ心に追い打ちをかけるように、今度は落胆がマリアを襲います。

昨年から広がったコロナウイルスは人々の体を痛めつけるだけでなく、心までも襲いました。不安と死への恐れです。さらに経済的ダメージが私たちの生活を困難にしています。人間関係も疎遠になり、感染するのではないかと人を恐れ、遠ざけるようになりました。また自然災害も重なりました。痛み、悲しみ、落胆。これでもか、これでもかと襲いかかります。

昨年主がして下さった体験を証します。主に選ばれて神の子供とされた私たちに神様は、いつも語りかけます。「全てのクリスチャンに与えられている使命は伝道ですよ。」と。コロナ禍の中で私たちを愛してくださっている神様のみ心を思う時に、神様の愛を伝えることの緊急性を感じます。私たちは、日常生活の中で、伝道の種時きをしながら、家族や友人の救いを見たいと願い、神様のタイミングを待ち望みます。昨年はコロナ感染症が広がりを見せる中で私は伝道の機会を奪われたように感じました。でも、神様は30年前の職場の同僚で悩みの中にいた時に教会に誘い福音を伝えた方に再会させていただきました。15年ほとんど会う機会はありませんでしたが私は不思議な導きを確認し連絡を取りました。そして、教会で始まったばかりのオンライン礼拝に誘いました。初めての礼拝で画面越しに聖

園の墓で泣き続けるマリアに希望は残されていなかったのでしょうか。最も痛み、苦しむ女性に、復活された主イエス・キリストは真っ先に声をかけました。

「マリア」

自分の名を呼ぶ声に聞きおぼえがありました。雅歌では「私の愛する方の声がする。ほら、あの方が来られる。」(2:8)と愛し慕う方の声に耳をそばだてる女性の姿が描かれています。マリアはそこにイエス様を認め、

「ラボニ(先生)！」

と歓喜の声を上げました。

私たちの愛し慕う方主イエス・キリストは、落胆し涙する私たちを呼んでおられます。「わが愛する者、私の美しい人よ、さあ立って出ておいで。岩の裂け目、崖の隠れ場にいる私の鳩よ。私に顔を見せておくれ。あなたの声は心地よく、あなたの顔は愛らしい。」(雅歌 2:13-14)

復活の主こそ私たちの涙をぬぐって下さるお方。このお方は今も私たちの希望です。あなたを呼ぶ主の声が聞こえてきます。

「さあ、立って出ておいで。」

南紀キリスト教会 林 美砂子

霊様が強く働き信仰の決心をされ四か月後洗礼に与りました。そんな中、私はもう一つの奇跡を体験しました。87歳になる父が昨年9月にコロナの為延期されていた心筋梗塞後の三回目の心臓カテーテル検査を受けました。ステントを入れているはずの血管が再度梗塞を起こしかけている状況で見つかり、すぐに詰りを取り除くことが出来ました。神様が最高のタイミングで介入してくださった事を感謝しました。本人の希望通り翌日には退院し、翌週には、私たちの地域で持たれている南紀の礼拝に自分で車を運転し母と一緒に出席し、みんなで主を褒め称えました。私達の人生には思わぬ事が起こります。でも、神様は全てをご存知です。み言葉を愛し主と共に生きて行く時に神様は最善をして下さいます。主に栄光をお返します。

救われた時、もっと早く神さまに出会えていたらよかったです。と思ったことがありました。父親のことで、幼い頃から悩んでいたわたしは、幸せな家庭へのイメージが持てず、自立して生きることを目指していました。

高校を卒業すると同時に大阪市の学校事務職員となり、夜は大阪教育大学の二部学生として教師になるための学びを始めました。働いて自分で学費を用意し、家計も助けていたので、誰にも頼らず自立している、と考えていました。でも、毎日夜 11 時過ぎに帰宅する私を、母は起きて待っていてくれました。職場で食べるお弁当も、作ってくれていました。自立など出来ていなかったのです。今振り返ると、傲慢になっていたことが分かります。

クラスメートにクリスチャンが一人いました。その人は、いつも一生懸命で常に正しい事を言うので、みんなから一目置かれていました。私はその人が夫になる人だとは、思いもしなかったのですが、神さまのご計画で、少しずつ仲良くなり、教会に通い、洗礼を受けました。そして、卒業してから結婚することになったのです。もっと早く神さまと出会えていたらな、と私が言ったとき、夫が「一番いい時だったんやで。」と御言葉とともに教えて

くれました。夫は、信仰の先輩でもあり、いつも御言葉やその行いから、正しい道を示してくれています。

結婚してから 3 2 年。夫の言葉に素直になれない時や自分の失敗に言い訳をしてしまう時があります。その都度、神さまは必要な御言葉を与え、霊的な成長をさせて下さいました。しかし、先日、心の中で、私だって考えて生きてるねん！と毒づいてしまいました。すると、翌日ポッドキャストのメッセージで与えられた御言葉は、「妻は夫に従いなさい。それは、服従を意味するのではなく、謙るということです。」と私は、傲慢になっている自分に気がつきました。まさに、神のなされることは時にかなっているのです。

新型コロナウイルスで、思い通りにならない毎日ですが、ポッドキャストを通して日本中のアッセンブリー教会のメッセージを聞くことが出来る様になりました。毎朝、仕事に行く前に聞いています。

これからも、いろんな事が起こると思いますが、いつも御言葉にとどまり、祈り感謝して主の時を喜びながら歩んでいきたいと思えます。

### 『私を守られるイエス様』

私は、視覚と聴覚の障害を併せ持つ「盲ろう者」です。2010 年 7 月 25 日に受洗し、2 年後に受霊をしました。イエス様を信じて 11 年目を迎えます。救われる前は、母の死・前夫との離婚などの絶望を経験して自殺を試み、暗闇の中にいた私でしたが、夫・好彦と結婚し、イエス様と出会ってからは、毎日曜礼拝と水曜祈祷会に二人で通い、「光の中を歩く」ような素晴らしい人生を送ることが出来ました。

その好彦も、結婚 17 年目の 2019 年 3 月に天国に帰って行きましたが、残された私の身に不思議なことが起こり始めたのは、それからでした。目が見えない私は、石油ストーブに灯油を入れるのも一苦労なのですが、トントンと肩を叩いて「それくらいで大丈夫だよ」という好彦の声が聞こえたり、パソコン操作が分からなくなった時に「モモちゃん（私の愛称）、前に教

但馬伝道所 梅木久代

えたのを忘れたの？」と手順を覚えてくれたりすることがあったのです。それはきっと、先に天国へ行った夫が残された私を心配しているから、神様が天使か聖霊を遣わして（しかも夫の声で）、助けて下さっているのだと思います。神様は何と憐れみ深い方でしょう。更に、昨年 12 月には、綾部市に新築のアパートが当選するという祝福もいただき、一人でも本当に幸せに暮らしています。

私は、好彦の愛唱歌である「あきらめません」という賛美が大好きです。盲ろう者であり、不自由なことも沢山あります。しかし、私にはイエス様が共にいて助けて下さいます。これから先、どんなに辛いことがあったとしても、時に涙がこぼれても、必ず夜明けはやってくる。主からくる平安が待っている。その希望を持って歩んでいきます。

### 関西教区 女性の集い

2021 年 10 月 10 日（日）オンライン  
堀川寛師（広島基督教会 牧師）による  
「心」に関するセミナーの予定です。  
お楽しみに！

### 祈りの課題

それぞれの立場の女性（シングル・母・妻・医療介護従事者・女性教職・牧師夫人）が支えられ、信仰が強められ、用いられるように